

1 題 材 混声合唱の美しい響き

2 目 標

歌詞の内容や曲想を味わいながら、声部の役割を生かし、全体の響きに調和させた美しい混声合唱の表現をする。

3 指導にあたって

本題材では、混声合唱の持つ表現の美しさを味わう活動を通して、合唱活動の喜びを感じ、音楽を愛好する心情を育てることを目的としている。中学校第2学年は心身ともかなり発達し、変声の状況も安定に向かう（女声はより透明感があるしっかりとした声に、男声は太く迫力ある声になる）時期であり、それによって「声」の持つ表現の美しさや力強さを感じ合いながら、それぞれの声部の役割を理解し生かした表現活動を行うことで、全体としてより豊かで幅広く、調和された美しい混声合唱の響きを作り出ししていくことが可能となる。また、これまでの合唱活動で培ってきた歌唱の基礎・基本を生かし、自己のイメージや感情をよりどころにした表現の工夫を行っていくことで、生徒相互の音楽的な感性を磨き合い、より質の高い音楽を求めようとする意識を育てていく。

本学級の生徒は、明るく活動的である。音楽の授業を好む生徒が多く、意欲的に活動している。

5月からは小グループによるリコーダーアンサンブルに取り組み、音色や強弱、速度を工夫しながら、各々が表現豊かに演奏することができた。

【事前アンケート

- ①音楽の授業は好きですか。好き…18名 どちらともいえない…9名 好きではない…3名
- ②歌を歌うことは楽しいですか。楽しい…12名 どちらともいえない…14名 楽しくない…4名
- ③正しい発声を考えて歌っていますか。考えている…8名 あまり考えていない…18名 考えていない…4名
- ④各声部のバランスやハーモニーを考えて歌っていますか。考えている…7名 あまり考えていない…19名 考えていない…4名
- ⑤歌詞の意味を考えて歌っていますか。考えている…18名 あまり考えていない…10名 考えていない…2名

指導にあたっては、無理のない声域で美しいハーモニーが味わえる混声三部合唱曲「友達のしるし：パッパラー河合，作曲：田嶋勉）」と「虹（作詞作曲：森山直太郎／御徒町凧 編曲：信長貴富）」を用いる。まずしっかりとした発声法を身につけて、各声部が正しい音程、美しい発音で歌うように心がけていく。また、イメージを膨らませ、そのイメージをどのように表現すれば聴いている人に伝えることができるかを十分に考えさせるとともに、全体の響きを確認するために、小グループに分かれて相互に聴き合う活動や録音・録画等を生かす活動を取り入れたい。これらの活動は、範唱や自分たちの演奏を客観的に聴くことで、生徒が一人一人が楽曲の雰囲気の特徴づけている要素を知覚し、感じ取ったことを多くの相手に分かるように伝えあい、共有することが重要である。そのために音楽に関する記号や用語を用いながら、自分の思いや意図を言葉で表現し、学級や小グループで検討しながら高め合っていく活動を多く取り入れていきたい。また、本題材を通し、美しい混声合唱の響きを味わい、歌うことへの興味・関心を基盤として、生涯にわたって楽しく音楽とかかわっていく態度を身に付けさせていきたい。

4 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	○	○	○	
器楽				
創作				
鑑賞				
題材の評価規準	①共通の感動体験を通して、進んで音楽活動をしようと意欲的に活動をしている。 ②歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、表現することに意欲的である。	①声部の役割を理解し、全体に響きの調和を感じ取って、曲の雰囲気にあった表現の工夫をしている。	①声部の役割を理解し、全体に響きに調和させ、美しく響きのある声で歌唱表現をしている。	

5 指導計画（8時間扱い）

第1次 互いの声部の響きや曲全体の響きを味わいながら合唱する ————— 5時間

時間	主な学習活動	支援の手立て	評価規準
1 2 3 4 本時	・ 範唱を聴き、楽曲の雰囲気味わうことで、合唱表現への意欲を持つ。	・ 範唱CDやDVDなど、視聴覚教材を活用する。	・ 楽曲の雰囲気を味わい、合唱表現への意欲を持っている。 (ア-①)
	・ 自分の声部の役割を理解し、正しい音程をとり、美しく響きのある声で歌唱表現をする。	・ 声部別や個別にCDやキーボードを使って繰り返し練習する。 ・ 生徒同士の教え合い、高め合う活動を重視する。	・ 声部の役割を理解し、美しく響きのある声で歌唱表現をしている。 (ウ-①) ・ 声部の役割を理解し、全体の響きの調和を感じ取っている。 (イ-①)
	・ 全体での響きを確認し、正しい和音で、美しく響きのある声で歌唱表現をする。	・ 録音や録画など活用し、自分たちの合唱演奏を確認しながら練習をする。	・ 各声部の役割を理解し、全体の響きに調和させ、美しく響きのある声で歌唱表現をしている。 (ウ-①)

第2次 歌詞の内容や曲想を味わいながら、調和された美しい響きを作り出す ——— 3時間

5 本時の指導

- (1) 目 標 自分の声部の役割を理解し、正しい音程で歌唱表現をする。
- (2) 準備・資料 楽譜、学習カード、自己評価カード
- (3) 展 開

学習活動・内容	支援の手立てと評価	
1 発声練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無理のない発声ができるように、姿勢や呼吸法を確認する。 ・ 前時までの学習活動を振り返り、自分が担当する声部を正確に合唱することを心がける。 	
2 「友達のしるし」を合唱する。		
3 本時の学習課題をとらえる。		
声部の役割を理解し、正しい音程で歌唱表現をしよう。		
4 「友達のしるし」の各声部の課題について話し合う。 ・ 前時までの録音を聴き、それぞれの声部の課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの録音を聴いて、感じ取ったことを簡単に学習カードに書き入れるように、音楽の諸要素のポイントを絞っておく。 ・ 感じ取ったことを全体で共有できるように、付箋を用いて各声部に伝える。 ・ 自分の声部の役割を理解するために、自分のパートだけでなく、他のパートとの関わりをよく聴くように支援する。特に、3度平行移動する和音や、不協和音から協和音へ解決する部分の響きをしっかりと歌唱表現できるように言葉かけをする。 ・ パートリーダーを中心に、声部の課題を解決できるような練習方法を考える。 ・ 音程が正確でない部分は、ピアノ等で確認しながら繰り返し、しっかりと練習する。 ・ 全体の中での自分の声部の役割を認識し、それにあった歌い方を工夫できるように、音楽を構成する諸要素をいくつか提示し、意識を高める。 (評) 声部の役割を理解し、正しい音程で歌唱表現している。《表現の技能》(観察、自己評価カード) ・ これまでに学習した内容を確認し、特に気をつけるべき音楽の諸要素を板書した上で、まとめの合唱を行う。 ・ 次時は「虹」に取り組むことを告げる。 	
予想される生徒の意見 声量 バランス 音程 音色 など		
・ 楽曲中の自分の声部の役割について理解する。 ① 冒頭部分 (ユニゾン) ② 再現部分 (男声主体) ③ 展開部分 (女声主体+掛け合い)		
5 各声部に分かれて練習を行う。 ・ CDやキーボードなどを活用し、リーダーを中心に繰り返し練習する。		
6 まとめ合唱を行う。 ・ 生徒の指揮、伴奏で合唱する。		
7 次時の活動について知る。		